

追加発言

「NIPTの問題点

—現状の課題を踏まえて—

日本産婦人科医会副会長
国立病院機構横浜医療センター
平原史樹

2018年12月12日 日本産婦人科医会記者懇談会

NIPTでの問題点

- インターネットでNIPTと検索すると
⇒ 産婦人科施設以外の診療科クリニックの案内
- 「すぐにできます」「簡単に採血だけ」
⇒ ストレートにNIPTが可能
- 妊婦さんの不安に対応したことば：安心したい
 - ・ 胎児の先天異常が安全に簡単な検査でわかる
(これで安心できるのか?)
 - ・ 夫婦でじっくり向き合って考える時間プロセスは?
(先天異常児は稀なひとつとってしまう)

NIPTでの問題点

- 安心したかったのに「疑い」結果が出ると一転不安
不安・混乱が想定外のマグニチュードで襲ってくる
- 3つの異常(13, 18, 21トリソミー)以外にもさまざまな所見が見つかったからのカウンセリング, 説明は
確定羊水検査はどこで受けられる?
- もし妊娠の中断を考えるとすれば
どこでだれに相談すればよいの?
- この時点で初めて我が子と向き合う ⇒ タイムリミットが
しかも超音波画像で改めてみるわが児の姿は元気そう
- 羊水検査や中絶の重大なリスクを初めて知ること
・帝王切開後
・子宮筋腫摘出術後

NIPTでの課題点

- 比較的多数の妊婦(夫)がNIPTに関心はある
(安心したい)にもかかわらず
- NIPT認可施設にはアクセスしにくい状況
 - ・ 敷居が高そう
 - ・ 遺伝カウンセリングの予約がすぐ取れない
 - ・ 検査前カウンセリングは時間の浪費とおもう
 - ・ 夫婦で行かなくてはならないのが面倒
 - ・ 認可施設より安価なら安い方が
 - ・ NIPT認可施設が近くにない

生物学の基本原理・自然の摂理を教わっていない

(異常)が存在することで

(正常)が存在する

⇒ 生物の多様性(先天異常は20人に一人)
遺伝子の異常はすべての人に認められる

■ 生物の種が存続するということは表現型の違いとして
(正常)と(異常)が必ず共存するのが自然の摂理
個体のなかで, 集団の中で必ず起っていること

⇒ 生き物の宿命, ルール

⇒ 異常, 病気が産まれる時から予告され,
分かる時代に 私たちはどう向き合えばよいのか

■ どこまでの異常なら産む. どこまでの異常なら産まない
: 産む. 産まないの線引きの判断とは何なのか?

ではどうするのか?

■ NIPTのインターネットへアクセスするとき
あるいはその前に(妊娠前 or 妊娠初期から)
等しくすべての
妊婦(妊娠を考えている人)へ重要な
情報提供, アドバイスをすべきではないか
(出生前診断のみならず風疹等の感染症や
いま服用している薬の影響など様々な課題
に対応することが求められている)

■ 学校教育, 家庭, 社会のなかでわが子
をもつということを考え, おしえることの大切さ